

シリーズ「介護」④

母の在宅介護を振り返って

国立病院機構和歌山病院

副看護師長 中松しのぶ

様々の病気や障害を抱えてきた家族を自宅で見守りも得られました。介護することは本当に日々大変なことだと思いがあつたからだと思います。普段はかかりつけ医の地域のお世話になり、体調が悪くなつた時は、地域医療支援病院である和歌山病院に紹介を受け入院、治療を受け、退院したらまたかかりつけ医の先生にお世話になることを繰り返しました。日頃はかかりつけ医の先生に、入院、夜間の診療などは和歌山病院でという具合に、在宅でいながら治療が必要な時に受けることが出来たことは、父母も私も非常に心強かったです。

私はい年間でしたが、仕事を続けながら母を在宅で介護し、看取りました。母を在宅で看取ることができた理由をいくつか考えてみました。

一つ目は頼めることば周りに頼むことができたからだと思います。同居ではなかったのですが、一日に数回母のもとに通い介護をしていましたが、高齢の父に頼めることは頼みました。訪問介護も受けました。週一回の清拭と洗髪をお願いしました。看護師であり介護士においてはプロですが、誰かに頼めるというのがとても安心で、時間的ゆとりも得られました。

重なり、夜間母を一人には出来ず、数日入院しました。母は夜間呼吸器を装着するという医療的処置が必要であり、介護施設でのショートステイは困難でした。現在も和歌山病院では、在宅で介護されている家族様の休養と、日頃できない検査などを受けることによる体調管理を目的とした入院も受け入れていきます。特に、医療的処置を必要とされている患者様などは、介護施設でのショートステイが困難な場合があると思います。

病気や障害を抱えた患者様を地域で支える環境は整いつつあります。患者様やそのご家族様が暮らしなれたご自宅での生活が続けられるよう、利用出来るサービスを行政や、かかりつけ医と相談し、少しでも家族の負担を少なくすることは介護する側、される側にとっても大切なことだと思います。介護の経験を活かしながら看護師として、様々な方法をこれから一緒に考えていけたらと思います。